



(仮称)
郡山市歴史情報・公文書館
基本構想 概要版

2019年3月

郡山市

1 施設の基本的な考え方

基本構想策定の考え方

【基本構想策定の目的】

「郡山の歴史・文化遺産」を保全、整備活用し、情報発信しながら、次世代へ継承していくための拠点施設の整備

【整備の意義】

- (1) 歴史資料及び歴史的公文書等の収集と管理、公開責任
- (2) 歴史資料及び歴史的公文書等の活用による豊かな地域史像の確立
- (3) 市民の誇りとアイデンティティーの形成、継承
- (4) 歴史・文化遺産をまもり、活かすまちづくり

基本理念

過去と未来（あす）をつなぎ、郷土への誇りを育む 「知の結節点」となる拠点施設

- 郡山の豊かな地域史像を市民が再認識・再発見する場を提供し、郷土に対する誇りやアイデンティティーの形成・継承
- 本施設を拠点として、市民と行政が一体となって「郡山の歴史・文化遺産」をまもり、活かすまちづくりを進め、地理的・文化的にも交錯点であった郡山の過去と未来（あす）をつなぐ「知の結節点」として、情報を広く国内外にも発信していくことで、産業や観光振興など地域活性化に寄与

目指すべき施設像

「市民共有の知的資源」を活かし 郡山の未来（あす）につながる拠点

継承・発信すべき郡山の歴史的特質

- 東西南北からの文化の交錯点（**交流の歴史**、「**知の結節点**」）
- 東北・北陸・関東地方に接する地理的位置（**境界性**）
- 町村合併により広大な面積をもち、各地域がそれぞれに異なった風土、生活、文化をもつ（**多様性**）

備えるべき機能と役割

- 郡山の**歴史を未来に継承**する機能
- **地域の歴史を学ぶ拠点**としての機能
- **歴史資料を媒介とした市民交流拠点**としての機能
- **公文書館**としての機能
- 既存施設との有機的連携による**地域活性化機能**
- 日本、世界への**歴史文化情報発信機能**

公文書館機能

博物館館機能

埋蔵文化財
収蔵機能

ターゲット

次の世代（子どもたち）を中心として、
郡山市を訪れる幅広い層も含めてターゲットに設定

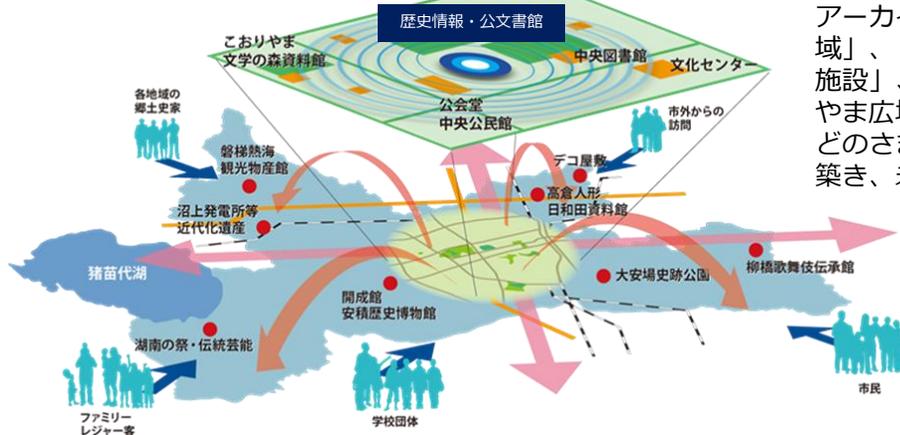
2

事業計画

事業展開の考え方

「交流の歴史」アーカイブを事業の核として、さまざまな“つながり”を築き、未来（あす）を創る

「交流の歴史」を継承するアーカイブを核として、「地域」、「ひと」、「既存文化施設」、さらには、「こおりやま広域連携中枢都市圏」などのさまざまな“つながり”を築き、未来（あす）を創造



郡山の歴史と未来をつなぐ



本市施設における事業の構成

| 事業 | 概要 |
|-----------|--|
| 収集・調査研究事業 | <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史資料及び歴史的公文書等の収集、整理、保存 ● 調査研究事業 ● デジタル化事業 |
| 歴史情報発信事業 | <ul style="list-style-type: none"> ● 常設展や企画展による「交流の歴史」の発信 ● イベント等を通じた市民の関心と誇りの醸成 ● 学校教育や生涯学習活動の支援 |
| 市民交流事業 | <ul style="list-style-type: none"> ● 郡山の歴史と魅力を市民が共有し、発信していく場や機会の提供 |

本市施策との関係性

- 市民の想いや願いをつなぐ「あすまちこおりやま」推進拠点
- 連携中枢都市宣言書を踏まえ、先人に学び、全世代の参画で圏域の未来を拓く取組を推進
- すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進するSDGsの推進
- 郡山市公共施設等総合管理計画における「歴史・シンボル施設」の課題解決を図り、施設の最適化を検討
- 10年ごとに編さんされてきた特筆すべき『郡山市史』の成果を反映
- 郡山震災アーカイブ事業で収集した資料、記録の活用

3 施設計画（立地）

計画地

歴史と緑にあふれた、市民の憩いと文化・交流の拠点である「麓山地区」への施設整備を検討

立体駐車場や景観等に配慮した周辺環境の整備についても検討



国土地理院

候補地の優位性・必然性

- 宿場町昇格（1824年）を記念して造られた麓山公園、市制施行（1924年）を記念して建設された郡山公会堂、旧市庁舎の県郡山合同庁舎など、本市発展の歴史に触れ、感じることができる歴史的建造物等が点在
- 中央図書館、中央公民館、文化センター等の文化施設集積地区としての相乗効果が期待
- 「麓山通り」「文化通り」の大通りに面して交通アクセスの利便性も良い
- 日本遺産構成文化財とつながる重要な位置にあり、回遊のゲートウェイ（入り口）となる

施設計画の考え方

郡山の歴史を軸に、“地域、ひと、未来（あす）をつなぐ”、にぎわいと交流のオープンな施設づくり

- 本市における「知の結節点」として、郡山の歴史を軸に“地域、ひと、未来（あす）をつなぐ”施設を実現
- 郡山の歴史の継承・発信と博物館機能、埋蔵文化財収蔵機能、公文書館機能が複合した新しいかたちの施設を具現化

施設に求められる方向性

- 一般市民が気軽に入れる、集える施設づくり
- 保存と継承、出会いと発見、未来への交流と創造が連携する施設
- 周辺施設との相互利用を考慮した“地域とつながる施設”

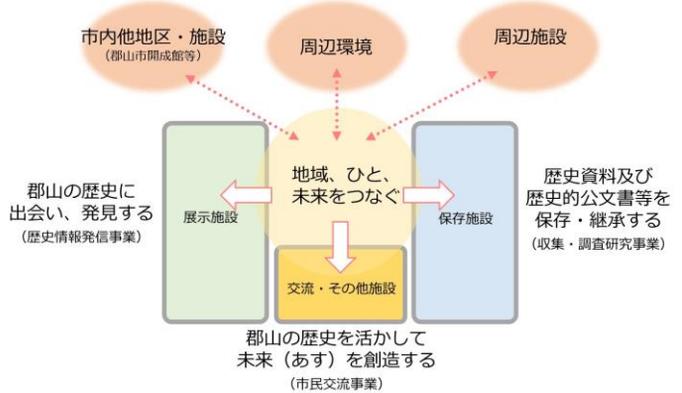
- 郡山の魅力発信を担う施設としてのシンボル性と発信力
- 将来を含めた収蔵資料の量に対応可能な施設規模の確保

3 施設計画（構成）

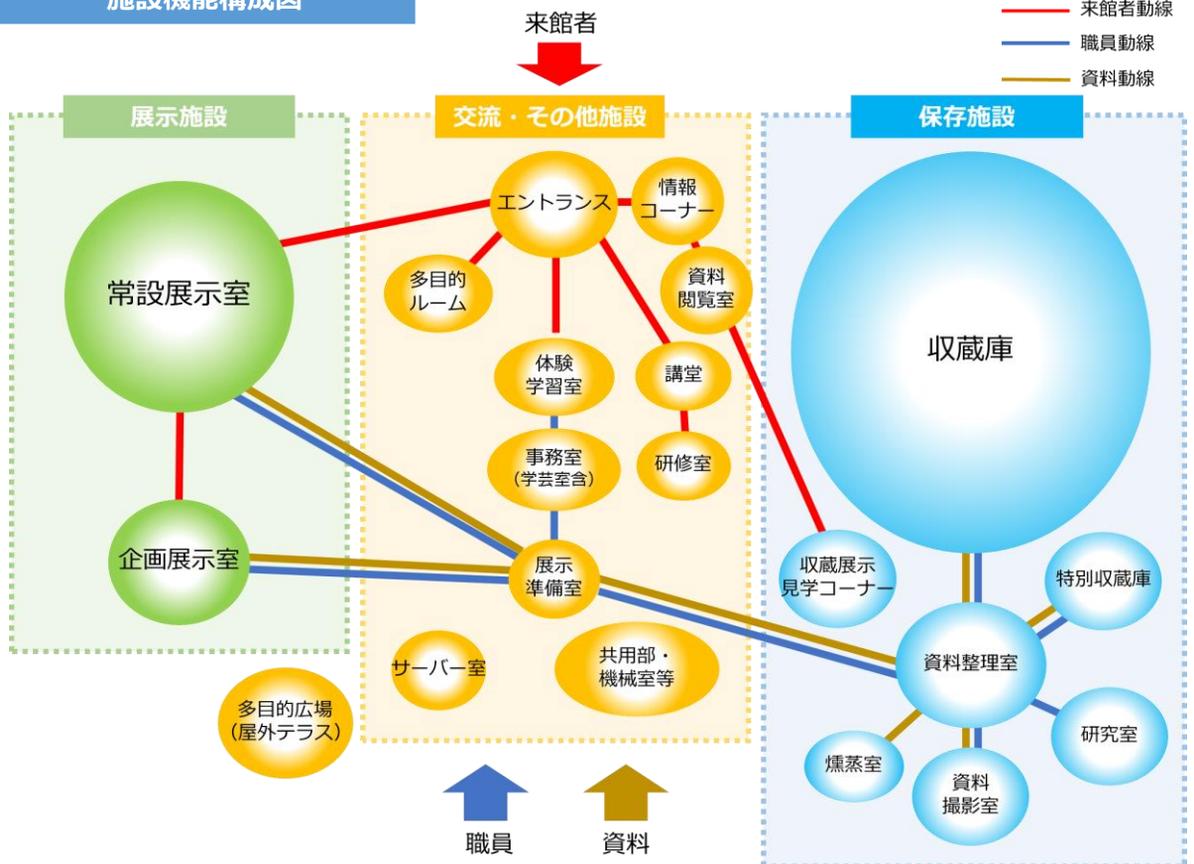
施設構成の考え方

「保存施設」と「展示施設」を多様な交流機能でつなぐ施設構成

- 「保存施設」（収集・調査研究事業）、「展示施設」（歴史情報発信事業）、「交流・その他施設」（市民交流事業）の3つで構成



施設機能構成図



資料を保管する既存施設及び公文書館機能（保存期間が満了した行政文書のうち、歴史的に価値のあるもの歴史的公文書等として選別収集し、誰もが主体的に利用できる状態で管理・保存し、公開する機能）から延床面積約3,000㎡程度を基準面積に設定

4

展示及び交流に関する計画

展示のテーマ

「交流」と「多様性」 —郡山の交流史を紐解く—

来館者自ら郡山の歴史を紐解き、辿りながら、「交流」、「多様性」という歴史的特質による「郡山ならではの」歴史を再発見し、郷土の誇りとして共有できる展示展開を図る

展示の考え方

- 「交流の歴史」、「境界性」、「多様性」を軸に、**日本史の中の郡山、世界史の中の郡山という視点**をもち、総合的に紹介
- 自ら考え、想像し、歴史を紐解く**体験学習展示**の導入検討
- 「過去から現在、そして未来につながっている」ことを印象的に伝え、**郡山のアイデンティティ**の共有を図る
- 多様で豊富な資料を活用して、**各時代における郡山の姿を多彩な角度から**展示紹介
- 歴史資料や公文書の**収集・保存の重要性**に気づいてもらい、調査研究業務への関心を高めるための**収蔵展示**検討
- 「こおりやま広域連携中枢都市圏」交流による圏域の歴史・文化の情報発信検討

【考古資料展示】

土器の形状や文様などを読み解き、その価値や背景を理解できる手法検討

【文書資料展示】

現代語訳明示等による分かりやすい展示手法検討

【民俗資料展示】

どのように使われていたか、どのような価値があるか伝える展示手法の検討

【収蔵展示】

多様で豊富な収蔵資料を公開し、文化の豊かさを伝える展示手法検討

交流の考え方

【学校教育連携】

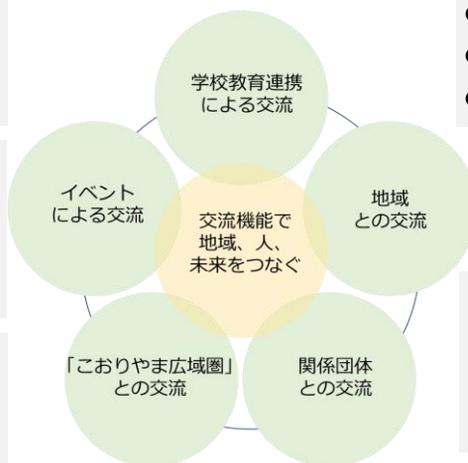
- 実物資料による教育プログラム
- バックヤードツアー

【イベント】

- 郡山の歴史の魅力発信
- 調査研究活動の紹介

【「こおりやま広域圏」】

- 市民講座や歴史フォーラムの開催、企画展などによる交流



【地域】

- 既存文化施設との連携
- 各地域の情報発信
- 各地域への考古資料展示

【関係団体】

- 郷土史研究会との協働
- 研究成果発表の場

5 整備スケジュール

整備について

歴史資料の収蔵や管理の在り方を検討するとともに、財源確保に努めながら、早期の開館を目指します

整備スケジュールの検討

| 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|--------|--------|-----------------|--------------|--------|
| 基本構想 | 基本計画 | 基本・実施設計 展示設計 | 建築施工 展示施工 | 開館 |

(仮称) 郡山市歴史情報・公文書館基本構想 概要版

2019年3月

■発行 郡山市

■編集 郡山市文化スポーツ部 文化振興課
〒963-8601

福島県郡山市朝日一丁目23番7号

TEL : 024-924-2661

FAX : 024-935-7834